

市町村長・管理職特別セミナー～これからの自治体運営と首長の役割～

平成30年度「市町村長特別セミナー」を、7月9日・10日の2日間の日程で開催しました。西日本を中心に記録的な大雨となった「平成30年7月豪雨」が収束しないうちの開催となりましたが、47名の市町村長・副市町村長の皆様に加え、「管理職特別セミナー」の研修生23名も合同講義という形で全国各地から御参加頂きました。今回のセミナーでは、急速に進む人口減少その他経済社会情勢の変化に的確に対応し、目指すべき方向性について知見を深めて頂けるよう、「これからの自治体運営と首長の役割」をテーマに、長年に渡り自治体の舵取りをされてきた首長経験者や、国家運営に鋭く斬り込むベストセラー作家の方など、バラエティに富んだ講師陣から、それぞれの視座に立った御講演を頂きました。

初日は、「変化する市町村行政と首長の役割」と題して、前全国知事会会長（前京都府知事）で、現在は京都産業大学学長補佐・法学部法政策学科教授でいらっしゃる山田啓二先生から、多様化、複雑化する社会に求められる新しい共生のあり方について、お話を頂きました。「地方行政は、変化を意識・消化し、従来の枠組みや官民の境を越えて新しい自治の形を築かなくてはならない。市町村長は多様性を束ねるコーディネーターになるべき」との言葉に、参加者からは、「市町村におけるこれからの政策的な視点について、改めて考えさせられた」、「正に多様性の時代と感じている中で、新しい《共生》を作り上げるという考え方は、地方を束ねる者として大変共感することができた」などの感想を頂きました。

次に、「地方分権の現状と課題～5年目を迎えた提案募集方式～」と題して、法政大学法学部教授、地方分権改革有識者会議提案募集検討専門部会長の高橋滋先生から、地方の実情に合わせた規制緩和や権限移譲により、住民サービスの向

上や地域課題の解決を図るための仕組みである「提案募集方式」について御講演頂きました。これまでの具体的な事例を御紹介頂き、住民参画型の行政の実現や、行財政の効率化に役立ててほしいと話され、参加者からは、「これまで国の法令等を機械的に遵守してきたが、今後は疑問を持ち、変えようと努力しなければならないことを発見した」、「住民と行政の一体感など、今後の行政の先駆けと感じた」などの感想を頂きました。

2日目は、「財政危機の下での自治体運営」と題して、ドラマ化・映画化もされた「ハゲタカ」などの作品で知られる小説家の真山仁氏から、最新刊である「オペレーションZ」（デフォルトを回避するため、官邸と財務省が歳出半減というミッションに挑む物語）や、農業、地熱発電を取り上げた作品群の制作秘話から、常識を覆す発想力について御講演頂きました。参加者からは、「極端な発想から当たり前の論理を打ち開き、新しい扉を開けていく考え方を伺うことができ、大変参考になった」、「社会問題にエンタテインメント小説の形で斬り込む作家ならではのものの見方に刺激を受けた」などの感想を頂きました。

最後に、「地方は消滅しない」と題して、地方自治ジャーナリストの葉上太郎氏から、全国津々浦々を自ら訪ね歩いて出会った大小の地域おこし活動について、お話し頂きました。1人が始めた小さな動きがやがて大きなうねりを起こし、地域に変化をもたらしたといった事例や、外部人材（いわゆるよそ者）による地域の宝の発見などの事例に、参加者からは、「まちの魅力づくりのためのヒントを頂いた」、「どんなところにも人財、資源がある。そのようなポイントに目が届くことを意識していきたい」などの感想を頂きました。

変化する市町村行政と首長の役割

前全国知事会会長（前京都府知事）、京都産業大学学長補佐・法学部法政策学科教授

山田 啓二先生



地方分権の現状と課題 ～5年目を迎えた提案募集方式～

法政大学法学部教授、地方分権改革有識者会議提案募集検討専門部会長

高橋 滋先生



財政危機の下での自治体運営

小説家

真山 仁氏



地方は消滅しない

地方自治ジャーナリスト

葉上 太郎氏

